

## 看護師の首尾一貫感覚に私的スピリチュアリティおよび 二次元レジリエンス要因が及ぼす影響

室谷 寛<sup>1)</sup>, 比嘉 勇人<sup>2)</sup>, 田中 いずみ<sup>2)</sup>, 山田 恵子<sup>2)</sup>

1) 国立大学法人富山大学附属病院

2) 富山大学大学院医学薬学研究部精神看護学

### 要 旨

本研究の目的は、看護師の首尾一貫感覚に私的スピリチュアリティおよび二次元レジリエンス要因が及ぼす影響について検証することである。看護師 443 名を対象に、首尾一貫感覚尺度 (SOC)、スピリチュアリティ評定尺度 A (SRS-A) と二次元レジリエンス要因尺度 (BRS) で構成された自記式質問紙調査を実施し、共分散構造分析を行った。その結果、最も高いパス係数は SRS-A から SOC への 0.37 であった。また、得られたモデルの適合度は概ね良好であり、これを「看護師の生き生き感を構成する概念モデル (生き生き感モデル)」と命名した。以上より、看護師の首尾一貫感覚を高め生き生き感を向上させるには、私的スピリチュアリティを高めることが有効であると考えられた。

### キーワード

看護師, 首尾一貫感覚, 私的スピリチュアリティ, 二次元レジリエンス, 生き生き感

### はじめに

我が国で働く看護職の人数は 2012 年で約 153 万人である<sup>1)</sup>。しかし医療・保健ニーズは高まる一方であり、それに十分対応できるほどの看護職が働いているかについては課題があるのが実情である。病院勤務の看護職は年間 10 万人が離職しているといわれ、離職の大きな要因の一つには、現在の労働条件・労働環境では働き続けることができないということがあげられている<sup>2)</sup>。18 歳人口が低下していく現代社会において、看護職を確保していくためには離職防止と働き続けられる職場環境が必要である。そのため厚生労働省は、医療機関等の「雇用の質」向上を図るため、働き方・休み方の改善、職員の健康支援、働きやすさ確保のための環境整備、働きがいの向上などの面からの取り組みを提言し、医療勤務環境改善マネジメ

ントシステムの導入・活用を推進している<sup>3)</sup>。さらに日本看護協会は、働く看護職の相談窓口を設置し、そのなかで作成された「はたさぼ ナースのはたらくサポートブック」には、安心して働くための制度や法律、ライフステージに応じた働き方、仕事と生活の両立、再就業のための支援機関等の情報が示され<sup>4)</sup>、より具体的な労働環境の整備に取り組んでいる。これらの取り組みにあたって、「看護職がよりよいキャリアを積み重ね、“生き生き”と楽しく働き続けること」がキャッチフレーズとして用いられているものがある。“生き生き”と楽しく働き続けるという状態は離職とは異なる様相であり、これを検討することで看護職を続ける原動力や、離職の防止に何らかの示唆を得ることができる<sup>5)</sup>と考える。

加護野ら<sup>5)</sup>は、“生き生き”という言葉の類義語を、勢い、明るさなど外から見て捉えられる状

態、また楽しさ、喜びなど本人が一時的に感じるもの、さらに夢や生きがいなど本人が持続的に感じるものに分類している。そして、一般企業で働く人々を対象に、現場に活力を取り戻すためには“生き生き”と働くことが重要であり、“生き生き”には心身の健康を左右するストレスや、意欲、やる気、動機づけといったモチベーションが関与することを述べている。すなわち、人が生き生きと働くためにはストレスに対処し、モチベーションを高めることが重要であると考えられる。

看護師について見てみると、“生き生き”と働くことを取り上げて研究したものは見当たらないが、看護職とストレスに関する研究は多く、看護師のストレス、バーンアウトの実態と職場環境、職務継続などとの関係についてはすでに明らかにされている<sup>6-9)</sup>。ストレス対処について見てみると、ストレス対処の原動力として、過酷なストレス下においても健康に生きていける力、すなわち首尾一貫感覚 (Sense of Coherence: 以下 SOC とする) という概念があげられる<sup>10)</sup>。これはアロン・アントノフスキーが健康生成論をもとに研究を進め、1987年に提唱した健康生成論の要の概念である。吉田<sup>11, 12)</sup>は看護師の SOC とストレス反応との関連を調査し、看護師の SOC はストレス反応を少なくする要因であることを明らかにしている。またモチベーションに関しては、モチベーションを直接的に測定している研究はなく、達成動機、職務満足、組織貢献意識などの尺度を用いて、職務継続との関連要因を検討している研究<sup>13, 14)</sup>がある。吉江<sup>15)</sup>は看護師を対象に達成動機、職務満足、自己実現と組織貢献意識との

関連を検討し、自己実現と組織貢献意識に関連があることを報告している。しかし、看護師を続ける原動力といえる内発的動機づけやこころの回復力、さらに生きがい感といった個人の内面的な要因をあげて、これらの関連を検討したものは見当たらない。

そこで本研究では、“生き生き”と働いている看護師個人の内面的な要因について焦点を当てることとし、既存の概念をもとに捉えることを考えた。ストレス対処力については SOC を、個人の内面的要因の内発的動機づけには私的スピリチュアリティ (以下 SRS とする)<sup>16)</sup> を、こころの回復力には二次元レジリエンス要因 (以下 BRS とする)<sup>17)</sup> を取りあげ、これら3つの概念を位置づけた“生き生き”感を構成する概念仮説モデルを作成した (図1)。この仮説として想定されたモデルは、SRS と BRS が基底となって SOC に影響していることを表している。このモデルを作成することにより、生き生きと働く看護師の内面的な要因を検討でき、看護職を続ける原動力や、離職の防止に何らかの示唆を得ることができると考える。

よって、本研究の目的は、看護師の SOC に SRS および BRS が及ぼす影響を検証することである。

## 研究対象と方法

### 1. 研究デザイン

量的記述研究および仮説検証型研究であり、自記式質問紙調査を実施した。

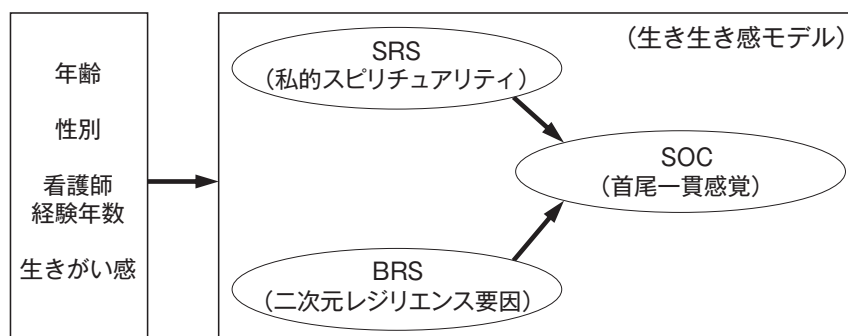


図1. 生き生き感を構成する概念仮説モデル

## 2. 対象者

A病院に勤務する看護師 589 名を対象とした。

## 3. 研究期間

2013 年 8 ～ 9 月

## 4. 調査方法

A病院の看護部長に調査依頼を行い、研究協力依頼書、自記式質問紙調査票を各部署へ人数配布した。質問紙の返答をもって研究の同意が得られたものとした。

## 5. 調査内容

1) 属性については、年齢、性別、看護師経験年数、生きがい感への回答を求めた。生きがい感については、近藤ら<sup>18)</sup>が作成した生きがい感スケールをもとに、看護師によく当てはまると判断した項目を4つの下位尺度から1項目ずつ選出し、その項目の文章を回答しやすいよう修正した4項目とした。回答選択肢は、「はい」…3点、「どちらでもない」…2点、「いいえ」…1点の3件法とした。得点範囲は4点から12点であり、得点が高いほど生きがい感が高いことを示す。

2) Sense of Coherence Scale 13: SOC-13 (首尾一貫感覚尺度 13)

SOCを測定する、日本語版かつ標準化を図った13項目からなる尺度である。把握可能感、処理可能感、有意味感から構成される。5件法であり、得点可能範囲は13点から65点までである。得点が高いほどSOCが高いことを示す<sup>19)</sup>。

3) Spirituality Rating Scale A: SRS-A (スピリチュアリティ評定尺度 A)

SRSを測定する15項目からなる尺度である。自分自身および自分以外との非物質的な結びつきを志向する内発的なつながり性と定義され、意欲、深心、意味感、自覚、価値観から構成される。5件法であり、得点範囲は15点から75点までである。得点が高いほどSRSが高いことを示す<sup>20)</sup>。

4) Bidimensional Resilience Scale: BRS-21 (二次元レジリエンス要因尺度-21)

BRSを測定する21項目からなる尺度である。

資質的な性質の強い資質的レジリエンス要因と獲得的な性質の強い獲得的レジリエンス要因から構成される。得点範囲は21点から105点までであり、得点が高いほどBRSが高いことを示す<sup>21)</sup>。

## 6. 分析方法

基本属性、SOC、SRS、BRSの記述統計および相関係数を算出し、共分散構造分析を行った。共分散構造分析については、図1より、SRSとBRSがSOCに影響を与えるモデル(生き生き感モデル)を作成して検討した。対象者の属性については、SRS、BRS、SOCとの関連および平均値差を検討した。モデルの評価には、CFI、AGFI、RMSEAを用い、CFI、AGFIは0.900以上、RMSEAは0.050以下を良好なモデルとした。有意水準は $p < 0.05$ とした。

統計解析にはSPSS 22.0J for WindowsおよびAmos 22.0を使用した。

## 7. 倫理的配慮

本研究では、対象とする病院の看護部長から研究協力の承諾を得たうえで、研究依頼説明文と、自記式質問紙調査票を配布した。研究の目的・方法、研究への協力は自由意思であり協力しなくても不利益はまったくなく、個人情報保護を厳守すること、研究目的以外にデータを使用しないこと、自記式質問紙調査票の回収をもって研究への同意を得たものとするを明記した。

なお、本研究は、富山大学臨床・疫学研究等に関する倫理審査委員会の承認を得た上で行った。

## 結 果

### 1. 質問紙の回収率および有効回答率

回収数453部、回収率は76.9%であった。尺度全体にわたって欠損しているなど、有効な回答が得られていないと判断したものは分析対象から除外した。有効回答数は443部で、有効回答率は75.2%であった。

## 2. 対象者の属性

分析対象者は443名（女性415名, 男性28名）, 平均年齢±SDは33.77±10.30歳, 平均看護師経験年数±SDは11.10±9.97年であった。生きがい感得点平均±SDは8.24±1.82であった。

## 3. 基本属性, SOC, SRS, BRSの関連

SOC-13得点, SRS-A得点, BRS-21得点と相関が認められた基本属性は生きがい感得点のみであった。これら変数の平均値および標準偏差値を表1に, 相関係数を表2に示した。

SOC-13得点の平均±SDは38.61±5.86, SRS-A得点の平均±SDは40.29±8.78, BRS-21得点の平均±SDは68.16±9.58, 生きがい感得点の平均±SDは8.24±1.82であった。

SRS-A得点とBRS-21得点に相関係数0.71と強い正の相関が見られた。SOC-13得点とSRS-A得点に相関係数0.68と中程度の正の相関が見られた。SOC-13得点とBRS-21得点に相関係数0.63と中程度の正の相関が見られた。SOC-13得点と生きがい感得点に相関係数0.58と中程度の正の相関が見られた。SRS-A得点と生きがい感得点に相関係数0.64と中程度の正の相関が見られた。

表1. SOC-13・SRS-A・BRS-21・生きがい感の各得点における平均値および標準偏差

(N=443)		
	平均値	標準偏差
SOC-13	38.61	5.86
SRS-A	40.29	8.78
BRS-21	68.16	9.58
生きがい感	8.24	1.82

表2. SOC-13・SRS-A・BRS-21・生きがい感の各得点における相関係数

(N=443)			
	SRS-A	SOC-13	BRS-21
SOC-13	0.68		
BRS-21	0.71	0.63	
生きがい感	0.64	0.58	0.56

BRS-21得点と生きがい感得点に相関係数0.56と中程度の正の相関が見られた。

## 4. 共分散構造分析によるモデルの作成

図1より従属変数としたSOCと中程度以上の相関が認められた変数は, 生きがい感, SRS, BRSであった。したがって, 生きがい感を独立変数として共分散構造分析に加えた。潜在変数をSOC, SRS, BRS, 観測変数を, SOCを構成する因子, SRSを構成する因子, BRSを構成する因子, 生きがい感とし, 生き生き感モデルの作成を目的とした最尤法による共分散構造分析を行った。分析の結果, 図2に示されるようなモデルが検出され, これを生き生き感モデルと命名した。

SRSからSOCへの因果係数は0.37であった。BRSからSOCへの因果係数は0.26であった。生きがい感からSOCへの因果係数は0.20であった。SOCの決定係数は $R^2=0.53$ であった。

最終的に採用されたモデルの適合度はAGFI=0.917, CFI=0.957, RMSEA=0.072であり, 適合度は概ね良好であった。全ての係数は $p<0.01$ で有意であった。

## 考 察

### 1. 生き生き感モデルを構成するSOC, SRS, BRSの関連性

SRSからSOCへ因果係数0.37を認めたことから, SRSとSOCが生き生き感モデルにポジティブな影響を及ぼすことが考えられる。また, BRSからSOCへ因果係数0.26を認めたことから, BRSとSOCが生き生き感モデルにポジティブな影響を及ぼすことが考えられる。生きがい感からSOCへは因果係数0.20を認めたが低値であることから, 生き生き感モデルへの影響は非常に弱いと判断される。これらのことから, 看護師のSRSとBRSを高めることでSOCが高められ, 生き生き感が向上すると推察される。

SRSとBRSと生きがい感にそれぞれ中程度～強い正の相関を認めたことから, SRSとBRSと生きがい感は相互に影響し合って生き生き感モデルにポジティブな影響を及ぼすことが考えられる。



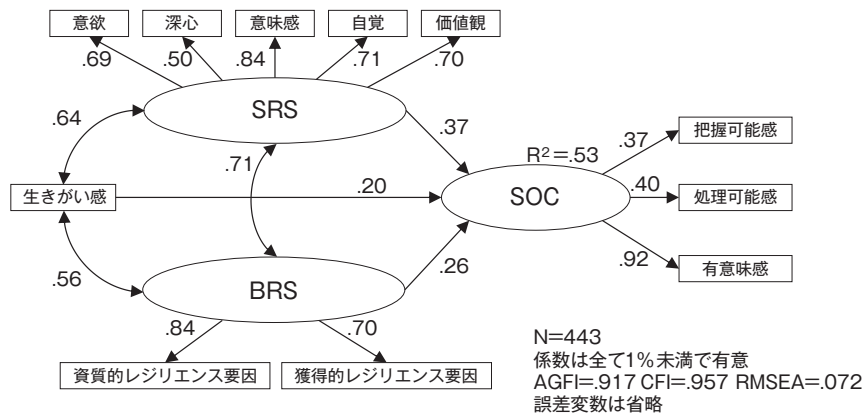


図2. 生き生き感モデル

確認された因果係数からは、生き生き感モデルにおいて SRS と SOC が最も重要な構成要因であると考えられ、SRS を高めることで効果的に生き生き感を向上させることができると推察される。すなわち、自分自身や自分以外に発する志向性を高めることで、さまざまな事柄に対して自らが関わる意味の実感へとつながり、SOC が高められ、生き生き感が向上すると考えられる。

川端<sup>22)</sup>は、緩和ケア病棟の看護師を対象に、私的スピリチュアリティ (SRS) と首尾一貫感覚 (SOC) の関連を検討し、看護師の現実的な自己への信頼、自己受容や人生観、価値観が首尾一貫感覚 (SOC) に影響していると述べている。このことは本研究の結果を支持するものである。

## 2. 看護師における生き生き感モデル検討の意義

生き生き感モデルにおいて SRS と SOC が最も重要な構成要因であり、SRS を発揮することで SOC が強化され、生き生き感を高めると考えられる。看護師の SRS を高める、すなわち内発的動機付けを高めるためには、自らが自己の目標を立てそれに向かって主体的に取り組み、目標達成という成功体験を積み重ねると共に、失敗した場合においても内省によって、出来事の意味を感じ取り、それをポジティブに捉え直すことによって遂げられると考える。さらにそうすることで、SOC、すなわち対処力も高まっていくと考える。このようにして看護師が生き生き感を高めていくことは、働く原動力を高めることにつながり、離

職防止に対する効果を期待できると推察する。

本研究は対象とした施設が1施設のみであった。今後は他の施設を対象として研究を行うことが必要であると考えられる。また、生き生き感モデルへの影響要因を質的帰納的に検討することが必要であると考えられる。

## 結 論

看護師を対象として共分散構造分析を行った結果、看護師の SOC に SRS と BRS が影響を及ぼすことが検証され、SOC、SRS、BRS で構成された生き生き感モデル (Sense of Vitality Model) が受容された。

## 謝 辞

本研究にご協力頂きました看護師の皆様に心から御礼を申し上げます。

## 文 献

- 1) 厚生労働省：看護職員の現状と推移. <http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000072895.pdf>, (2015. 12. 15 閲覧), p1.
- 2) 坂本すが：進めよう！健康で働き続けられる職場づくり，看護白書平成 25 年版. 日本看護協会出版会，2013

- 3) 厚生労働省：医療分野の「雇用の質」向上のための勤務環境改善マネジメントシステム導入の手引き（改訂版）. 2015. [http://iryoukinmukankyou.mhlw.go.jp/outline/download/pdf/iryoubunya\\_tebiki.pdf](http://iryoukinmukankyou.mhlw.go.jp/outline/download/pdf/iryoubunya_tebiki.pdf), (2015. 12. 28 閲覧), p4.
- 4) 公益社団法人日本看護協会：はたさぼ ナースのはたらくサポートブック, [https://www.nurse.or.jp/nursing/shuroanzen/madoguchi/pdf/2013hatasapo\\_all.pdf](https://www.nurse.or.jp/nursing/shuroanzen/madoguchi/pdf/2013hatasapo_all.pdf), (2015. 12. 28), p1.
- 5) 加護野忠男, 金井壽宏：なぜあの人「イキイキ」としているのか—働く仲間と考えた「モチベーション」「ストレス」の正体, 株式会社プレジデント社, 2006
- 6) 楠葉洋子, 平智津美, 岩下香奈美他：外来と病棟に勤務する看護師のストレスとその関連因子. 保健学研究 22(2)：27-35, 2010
- 7) 小粥宏美, 岡安孝弘：看護師のバーンアウトに及ぼす仕事ストレスと不合理な信念の影響. 健康心理学研究, 23(1)：13-20, 2010
- 8) 板山稔, 田中留伊：医療観察法病棟に勤務する看護師の自律性, ストレッサー, バーンアウトに関する研究. 弘前医療福祉大学紀要, 2(1)：29-38, 2011
- 9) 李松心：看護師におけるバーンアウトの研究, 佛敎大学大学院社会福祉学硏究科編社会学硏究科編, 40：35-51, 2012
- 10) 山崎喜比古：看護に SOC をどう活用するのか ストレス対処力 SOC (sense of coherence) の概念と定義, 看護硏究, 42(7), 2009
- 11) 吉田えり, 山田和子, 芝瀧ひろみ, 森岡郁晴：看護師の Sense of Coherence とストレス反応との関連, 日本看護硏究学会誌, 36(5), 25-33, 2013
- 12) 吉田えり, 山田和子, 森岡郁晴：病院に勤務する男性看護師の SOC, ストレス反応, SOC とストレス反応との関連, 産業衛生学雑誌, 56(5), 152-161, 2014
- 13) 坂上真弓, 猪俣千代子：看護師の仕事意欲に関連する個人要因および環境要因. 日本漢語学会論文集看護管理, 40：9-11, 2010
- 14) 植村奈奈, 坪内千奈, 西川美保他：看護師における達成動機が与える自己効力感への影響. 公立南丹病院医学雑誌, 10：61-65, 2008
- 15) 吉江由加里：看護師の組織貢献意識と職務満足度・自己実現・達成動機との関連. 富山大学看護学会誌, 13：105-114, 2013
- 16) 比嘉勇人：Spirituality 評定尺度の開発とその信頼性・妥当性の検討, 日本看護科学会誌, 22(3), 29-38, 2002
- 17) 平野真理：レジリエンスの資質的要因・獲得的要因の分類の試み—二次元レジリエンス要因尺度 (BRS) の作成, パーソナリティ硏究, 19(2), 94-106, 2010
- 18) 近藤勉, 鎌田次郎：現代大学生の生きがい感とスケール作成, 健康心理学硏究 11(1), 73-82, 1998
- 19) 戸ヶ里泰典, 山崎喜比古：13項目5件法版 Sense of Coherence Scale の信頼性と因子的妥当性の検討, 民族衛生, 71(4), 2005
- 20) 16) 前掲
- 21) 17) 前掲
- 22) 川端美登里：終末期がん看護に携わる看護師のスピリチュアリティと首尾一貫感覚 (SOC) の関連要因に関する硏究, 甲南女子大学硏究紀要, 5, 41-49, 2011

## **Effects of nurses' personal spirituality and bidimensional resilience on sense of coherence**

Hiroshi MUROTANI<sup>1)</sup>, Hayato HIGA<sup>2)</sup>, Izumi TANAKA<sup>2)</sup>, Keiko YAMADA<sup>2)</sup>

1) Toyama University Hospital, Department of Nursing

2) Department of Psychiatric Nursing, Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences, University of Toyama

### **Abstract**

The purpose of this study was to investigate the effects of nurses' personal spirituality and bidimensional resilience on sense of coherence. A self-administered questionnaire survey consisting of Sense of Coherence Scale (SOC), Bidimensional Resilience Scale (BRS) and Spirituality Rating Scale A (SRS-A) was given to 443 nurses, and a covariance structure analysis was conducted. The results showed that the highest path coefficient was 0.37 from SRS-A to SOC. The goodness of fit of the obtained model was generally good, and it was named "A Conceptual Model Constituting Nurses' Sense of Vitality (Sense of Vitality Model)." From the above, raising personal spirituality is thought to be effective in improving sense of vitality, which improves nurses' sense of coherence.

### **Key words**

nurse, sense of coherence, personal spirituality, bidimensional resilience, sense of vitality